

西光寺だより

第五十号 平成二六年十月一日発行

澄みきつた青空が秋を感じる頃となりました。今年の夏は、雨が多く晴れ渡る日が少なかったぶん、最近の心地よい気候は例年にも増して清々しく感じます。さわやかな風が稲穂を揺らす姿などは、本当に美しい風景ですね。これから色づいてくる山々の景色もまた、秋ならではの楽しみのひとつです。

しかしここ数年、自然災害が多く被害を出していることも事実です。環境は整備され、科学が発展して災害に対する情報が豊かになった現代においても、大きな自然の動きの中にあつては、人間の力は足元にも及びません。

山や川、草や木など、人が作ったものではなく、この世にもともとあるものが「しぜん」です。雲や海、星や月、虫や魚も「しぜん」の一部です。また、手を加えたりしていない、ありのままの様子を「しぜん」といいます。

昔は、自然を「じねん」と読んでいて、もとは仏教のことばです。髪の毛がいつの間にか伸びるように、何もせず放っておいてもひとりだにそうなることを「じねん」といいました。そこには、「しぜん」に逆らったりしないで、ものごとをありのままに受け入れるという、仏教の大事な考え方があります。

わたくしたちは、いつの間にか、自然さえも自分たちの都合の良いように動くものだという人間中心の考えに甘んじているのかもしれない。もちろん、被害が起きないに越したことはありませんし、今後もしも起きないように予測することも大切です。しかし、どの時代においても人間も自然の中で生かされているということは決して忘れてはならないことだと思えます。それでもなお、美しい景色を感じられるということ、この一日いちにちに感謝いたしましょう。

◆十・十一月の行事◆

・十一月 二十三日(日)

報恩講法要

午後二時・七時 西光寺本堂

◎御法話 本願寺派布教使 和氣 秀剛 師

(奈良県 圓光寺)

◆先月の報告◆

①九月は在家報恩講のお参りでございました。報恩講は宗祖親鸞聖人のご恩を偲び、そのご苦勞を通して、阿弥陀如来のお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要でございます。その報恩講を寺院でつとめるだけでなく各門信徒のお仏壇でもお勤めさせていただくお参りでございます。日頃とは違う朱ロウソクで御莊嚴され、正信偈のお勤めさせていただきました。

浄土真宗の報恩講の始まりは、親鸞聖人がお手紙の中に仰せのように、師法然上人のご命日に「法然上人の二十五日のお念仏をお勤めになられたことが起こりと受け止められます。」

しかしながら、今日の報恩講のように、親鸞聖人のご命日にちなんでお勤めするようになったのは、第三代覚如上人の頃からで、上人は永仁二年(一二九四)の冬、報恩謝徳のために『報恩講式』を作られ、これ以来親鸞聖人のご命日にお勤めする法要を「報恩講」と呼ぶようになりしました。

京都西本願寺(本山)では毎年一月九日(親鸞聖人のご命日の十六日まで)御正忌報恩講が厳修されます。

②九月十八日(木) 大谷本廟墓参を皆様で致しました。こうして皆様とご一緒に大谷本廟にお参りするという、年に一回の行事をこれからも続けていきたいと思えますのでどうぞよろしくお願い致します。



大谷本廟の無量寿堂と外のお墓を参拝



③九月二十日(土) 仏教婦人会報恩講を西光寺で午後一時から厳修致しました。約三〇名の婦人会の方々と共に正信偈のお勤めをしたあと、親鸞聖人の一代記の紙芝居をさせていただきます。

親鸞聖人のお徳を皆様で偲ばせて頂きました。最後には、おはぎなど甘いものをいただき、親睦をはかることができ、一年に一度の大切な一日とさせていただきました。

また来年皆様に元気に会わせていただきたいと思いますのでございます。ありがとうございます。

④九月二十八日(日) 午後二時・七時に西光寺にて秋季永代経法要を厳修致しました。昼・夜共に多くの門信徒の方が参詣され、故人を偲ぶと共に、私たち自身が仏法と遇う大切な仏縁を味わいながらお勤めを致しました。午後二時は仏説阿弥陀経、午後七時は正信偈行譜六首引きのお勤めを致しました。布教師の先生は清岡隆文師でございました。春の永代経と続いてのご法話を聴聞させていただきました、改めて親鸞

聖人のお心を感じるお話を頂きました。ありがとうございます。そして総代様はじめ、役員・年番・仏婦の皆様、後片付けや受付、お茶の接待などお力添えを頂き本当にありがとうございます。

●茨木東組念仏奉仕団参加者募集のお知らせ

今年も茨木東組念仏奉仕団募集の時期になりました。この念仏奉仕団、今年で二十六回目を迎えます。浄土真宗本願寺派本山である京都の西本願寺にて清掃奉仕を通して愛山護法の念を深め、宗祖親鸞聖人のみ教えを肌で感じ、学びながら仏恩報謝の生活に生かされる浄土真宗の門徒としての生き方を改めて振りかえる場として、茨木東にある十八カ寺のお寺とその門徒さんで構成される茨木東組の恒例行事です。今年は十二月八日(月)～九日(火)の一泊二日で行われます。宿泊先は西本願寺隣にある京都東急ホテルです。

くわしい日程などは申込用紙に記載されていますが、西本願寺内の清掃活動をしていただき、ご門主様(本願寺住職)との記念撮影、そして龍谷ミュージアム観覧、東急ホテルでの懇親会、朝早くなかなか行く事が出来ない朝六時からの本願寺でのお勤め(晨朝参拝)、国宝の書院・飛雲閣拝観など、さまざまな西本願寺でしか味わえない時間を皆様と一緒に過ごしたいと思えます。締切は十月三十一日(金)です。また申込み・詳細は西光寺までご連絡ください。

一年の一度の清掃や参拝を通して、世界遺産や国宝に指定されている西本願寺や宗祖親鸞聖人を身近に感じて頂けたらと思っております。たくさんのご参加、お待ちしております。

合 掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二二

電話 〇七二一六二一四七九四

FAX 〇七二一六二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>